

平成23年度「道徳教育学校改善プラン」(検証シート)		四万十市立中村南小学校		校長名:徳弘 純一	
評価項目	評価	その評価をした理由・その要因など	より改善を進めるための今後の取組や課題など	成果のあった取組	
『道徳教育学校改善プラン』の「2 道徳教育推進の具体的な到達目標」に記載していることに対する評価	A	・学校行事を含めた各種教育活動、あいさつや掃除など道徳的実践の場や機会の指導の充実に向けて、PDCAサイクルを意識して全教職員で取り組んだ結果、学校評価アンケートにおける学校満足度に関する肯定的な評価が、児童93%、保護者94%に達した。 ・道徳教育推進教師と研究主任を中心とした学校ぐるみの道徳の時間の計画的な実施や質的改善に向けた授業研究や指導主事による定期的な学校訪問指導により、道徳の時間の質の向上がみられ、児童の意識や意欲、発言や行動の質が高まった学級が増えた。 ・あいさつ、掃除・整理整頓、歩き方など道徳的実践については、まだ課題があり、引き続き効果的な指導を探り、強化する必要がある。	・全体計画や統合計画、道徳の時間の年間指導計画(特に主題配列)をもとに、指導の重点化と、学校行事、生活目標、学級活動など他の教育活動との関連を深く意識した意図的計画的系統的な道徳教育の取組を推進していく。 ・短期、中期のPDCAサイクルを生かし、児童、保護者、教職員の実態や意見も踏まえながら、より充実感と教育効果のある教育活動にするよう総合的に学校改善を進め、その中に道徳教育をしっかりと位置づける。 ・道徳的実践については、児童会活動や学級活動等特別活動とも連動し、より質実な姿を求め指導を強化する。	・教職員による月毎、学期毎の学校教育活動の総括反省 ・学校評価アンケート(児童、保護者、地域、教職員) ・校内研修における2つの研究プロジェクト(授業改善部門、実践指導部門;以下「PT」)の組織と取組 ・他の道徳教育重点推進校の公開授業研究会や発表会等への参加	
	B				
	C				
	D				
『道徳教育学校改善プラン』の「3「2」の目標を達成するための今後の具体的な取組」の各項目に記載していることに対する評価	道徳教育推進のための指導体制づくり	A	・道徳授業の改善、道徳的実践の指導の充実、道徳教育全体の充実に向けて、校長の方針のもと、校内研修体制を整備し、研究企画委員会や道徳授業改善及び道徳的実践に関するPTを活用しながら、全教職員の参画により学校全体で組織的に道徳教育を推進している。 ・道徳教育推進教師が、昨年度にも増して、教材教具及び参考資料の作成、研究物等の整理等、道徳教育推進のための校内環境整備に努めたほか、道徳授業の話題を学級担任等と話す機会を多くもつことで連携が深まり、教員全員の道徳教育への意識を高めることができた。	・道徳教育に関する考え方、研究推進の方法は一段と進化し、共通理解が深まった。今後、指導体制を一層強化するためには、道徳教育推進教師の計画的で創造的な指導性の発揮、研究企画委員会のメンバーを核に各担当及び両研究PTによる焦点化された研究推進が望まれる。 ・これまでの指導及び研究実践上の課題を明確にし、その解決方策を具体的に検討し、全教職員の英知と能力・特性を生かして指導の充実を図る研修活動が必要である。	・定期的(月1回)な研究企画委員会(管理職、教務、研究、道徳担当、教務主任、両研究PTリーダー)の開催 ・高知県教育委員会担当指導主事による校内研修や学校訪問 ・全国的なレベルの講師招聘による校内研修及び県内外の道徳教育研修会・研究大会への参加
		B			
		C			
		D			
	心を耕す授業づくり	A	・道徳教育推進教師が、きめ細かに各学級の道徳授業の計画段階の相談助言や準備支援と授業後の振り返りにあたり、道徳授業の日常的な充実を具現化してきた。 ・道徳授業の質的改善のため、研究主任をリーダーに研究授業や公開授業を計画的に実施し、着実に授業研究を重ねた。今年度は、授業協議の視点に改善を加え、授業評価も活用して、研究協議の質が高まった。 ・低・中・高学年のブロック研修など、少人数による研究活動も奏功して、道徳授業研究に関わる考え方(理論)や指導方策(方法)が豊かに語られ、一人一人の関与性や意識、授業力の高まりがみられた。 ・西部教育事務所との2名の指導主事の定期的な訪問指導も各担任の授業力の向上と学校全体の授業改善のための貴重な契機となった。 ・授業力診断シートについては、特に若手教員と転入教員の道徳授業力がアップしており、学級間の格差が改善し、質が揃ってきた。	・日常的な道徳授業の充実のために、さらに継続して、教材教具、参考資料、指導路案、板書記録等を残していく。 ・各学年の年間指導計画を綿密に見直し、より意図的統一的な指導計画と道徳の時間としていく。 ・資料分析、指導内容・指導目標、発問、指導過程の研究をさらに深めるとともに、授業においては、表現(言語)活動をさらに意識して、児童の発表力を高める必要がある。 ・今年度研修を深めた「価値理解、他者理解、自己理解」の考え方を生かした道徳授業をさらに追究したい。 ・授業改善PTを中心に、これまでの研究実践の成果を生かし、本校としての道徳の時間の基本的・典型的な指導過程、効果的な指導方法等を整理する。可能な範囲で、自主教材や独自の心のノート、道徳掲示板等も作成したい。	・展開の大要等を盛り込んだ道徳の時間の年間指導計画の改善 ・担任や道徳教育推進教師による教材教具づくり ・道徳の時間の研究授業(各学年1授業)、公開授業(希望者) ・高知県教育委員会・西部教育事務所担当指導主事による校内研修や定期的な学校訪問、西部教育事務所管内初任者研修(道徳教育)会場校 ・参加者による道徳教育各種研究会・研修会の校内伝達報告
		B			
		C			
		D			
	重点推進校としての成果普及	A	・年間3回(各学期1回)の道徳教育公開授業研究会を開催し、研究授業や研究協議を公開するとともに、全国レベルの講師を招聘し、道徳教育推進の視点や方向性、課題解決に向けた貴重な示唆をいただいた。 ・四万十市・三原村道徳教育推進委員会、四万十市道徳教育研究会、要請を受けた他市町村の道徳研究組織や他校の校内研修、幅多地区道徳教育研究会、高知県道徳教育研究会、高知県教育委員会等が主催する各種研究会や研修会に積極的に参加し、本校の研究実践の取組や進捗状況(成果や課題)等について、鋭意情報提供に努めた。 ・ホームページにおいて、道徳授業研究(学習指導案、授業の様子等)、道徳的実践の指導(取組の内容や様子等)、道徳教育に関する諸計画などを適宜、情報提供できた。(2年連続J-KIDS優秀校)	・来年度の研究発表会を見据えて、これまでの研究実践をもとに、本校の研究テーマ及び研究推進の視点や取組方策、道徳授業の考え方や指導の手立て、道徳的実践の指導の重点や方策、児童の意識調査や授業力診断シート等の結果、その他の道徳教育の推進方策等について、わかりやすく図表化したり、ポスター等に整理することで、共通理解を深めるとともに、参会者にとって有益で参考になる資料を作成する。 ・校長、道徳教育推進教師、研究主任以外の教員も、授業公開の授業者は勿論のこと、発表者、司会者、執筆者などを積極的に引き受け、本校の研究実践や自らの実践を公表するように努める。	・道徳教育公開授業研修会(年間3回・学期1回) ・ホームページ及び学校通信、学級通信等 ・高知県道徳教育夏季研修会や冬季研究大会への参加や発表 ・四万十市・三原村道徳教育推進委員会での報告や提起 ・他市町村道徳推進組織や他校校内研修での講師
		B			
		C			
		D			
その他	A				
	B				
	C				
	D				

A→達成十分 B→おおむね達成されている C→あまり達成されていない D→達成不十分